

2018 事故防止・経験交流集会 開催報告

教遭委員 伊東春正 (かがりび山の会)

今年も事故の共有化・再発防止と各会交流を趣旨として、11月10・11日に教育遭難対策委員会主催で交流会を開催した。

今回は、富津市民の森で開催し、12の会から40名の参加があった。

1日目は、まず千葉県連の事故状況の報告をした。

最近5年間の事故発生件数は、全国平均より少ないが、女性の事故件数が男性より2倍多いのが、千葉県連の特徴である。今年は、これまで9件の事故が発生している。

全国遭難対策担当者会議の報告では、6/30,7/1の二日間の会議内容をかいつまんで報告した。

その中での2件の事故事例を取り上げて、何が問題で自分たちだったらどうするかという観点で、4つの班に分かれてディスカッションを行った。

- ・事例1：残雪期の雨飾山での滑落とビバーク
- ・事例2：心臓疾患が原因の事故

国際山岳看護師の講演では、該資格を持つ教遭委員から「山岳領域の看護活動」をテーマに講演を行った。

標高の高い診療所に来る人の80%は高山病であり、高山病の症状がでたら、すぐに下山するのが正しい処置であるという助言があった。

夕食・交流会では、場所をキャンプ場に移し、食事しながら各会の紹介を行い、特に若い会員のいる会では大いに盛り上がっていた。

2日目は事例研究発表を机上発表と実演とに分けて行った。

事例1の机上発表では、いくつもの問題点が指摘され、総じていえば経験不足、準備不足であり、残雪期とはいえ雪山は万全な計画と装備で臨むべきとの結論であった。

事例2では、日常生活での自己管理と会として心臓疾患に対する対処法の啓蒙活動が重要であるとのまとめで、山行中に発症した場合の症状の判断、意識確認、救急搬送などを寸劇しながらの発表となった。

実演は、事例に沿って実際の場面での対処方法を、教遭委員の指導で班ごとに実施した。

- ・ロープで確保しながらの下山
- ・ツェルトによるビバーク方法
- ・倒れた人の様態の確認

- ・安全な場所への搬送
- ・ヘリ救助要請と誘導
など。

以上盛りだくさんの内容であったが、参加者の真剣な取り組みで有意義な集会となった。

今後もこのような疑似体験を繰り返し実施し、県連のレベルアップを図っていった。

〈交流会開会挨拶〉



〈国際山岳看護師の講演〉



〈夕食・交流会〉



〈事例研究・机上発表〉



<事例研究発表・実演>



参加者の感想（抜粋）

・登山は PDCA サイクルを回して、次の活動に備えるスポーツ。会派を越え、色々な意見を出し合い、補完できる作業は知的で楽しい作業。

・遭対協の方も、万全の準備を事前にされてきた筈。各会の幹部会員だけでなく、これからリーダーを担う方には是非とも参加して頂けるようにネゴすることが必要なことだと思った次第。

・各会の人意見などを聞いたことは、非常に参考になりました。
できれば、事故事例資料を前もってメール配信していただければ助かります。

・小林美智子さんの講演が良かった。
自分の会の会員にも聞くチャンスがあれば良いと思います。

・よく準備された交流会でした。次回は参加者を増やしたいと思います。

・メンバーで闊達な意見を交換することが出来ました。テーマが難しく一時悩む部分もありましたが、テーマから派生した内容にも先輩方の経験や知識を享受することができ、とてもためになりました。

・ツェルトの使い方、傷病者の搬送の仕方など、普段の山行内では学べない事を実践的に学ぶことができとても勉強になりました。